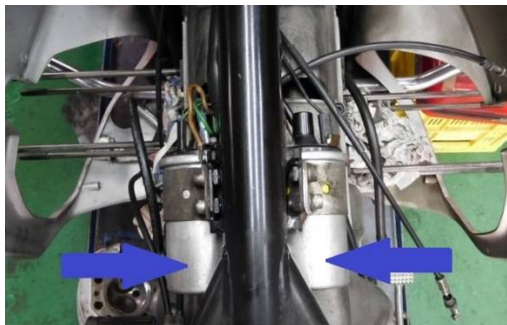


## 点火システムの変遷 その2 (1969-1984)

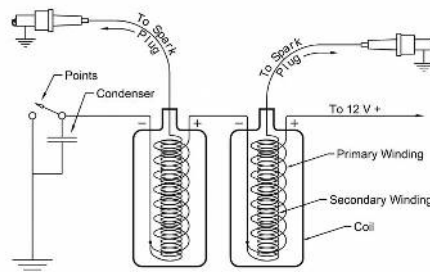
1969年に発売された／5シリーズから2本サス最終の1984年までシングルコイルを2個並べたツインコイル式が採用されました。1980年まではポイント式のバッテリー点火で以降はホール素子を利用した無接点ピックアップのトランジスター式にグレードアップされました。



左右に並んで

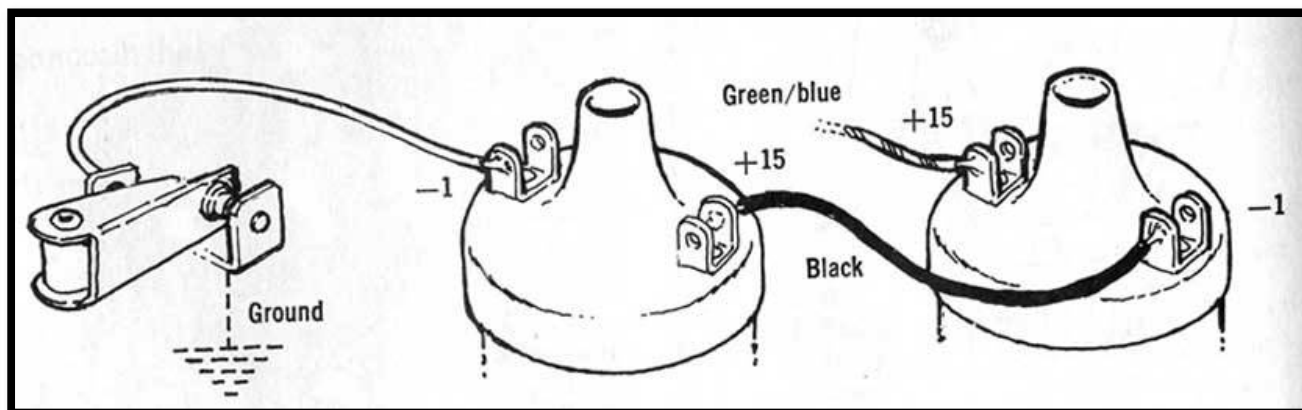


配列電流の方向



ツインコイルの接続方法

電装が12V化され発電機も三相交流式の180W(／6から280W、電子式レギュレーター採用で240W) スターターモーターもイグニッション・コイルも実績ある自動車用を採用しました。



### コイルの一次端子を刺し間違えると、逆極性や左右反対方向になります

このモデル群もポイントはひとつなので「捨て火点火」になっています。ただし、ふたつのコイルを使っているため電流方向は左右シリンダーとも同じ方向で逆極性にはなりません。

ポイントが装着されているのがカムシャフト延長の細いシャフトのため調整は細心の注意が必要です。

### 点火方式

- I : /5-7 (1980年まで) ツインコイル (シングルコイル2個) ポイント点火 ※1
- II : 1981-84年 ツインコイル フルトランジスター点火

※1 : 社外のフルトラに改造する場合、コイルの1次抵抗値に注意 純正仕様と異なり電流遮断の安全機構がないため点火コイル焼損のリスクがあります。

